

## Geotailの思い出

NEC 川口 正芳

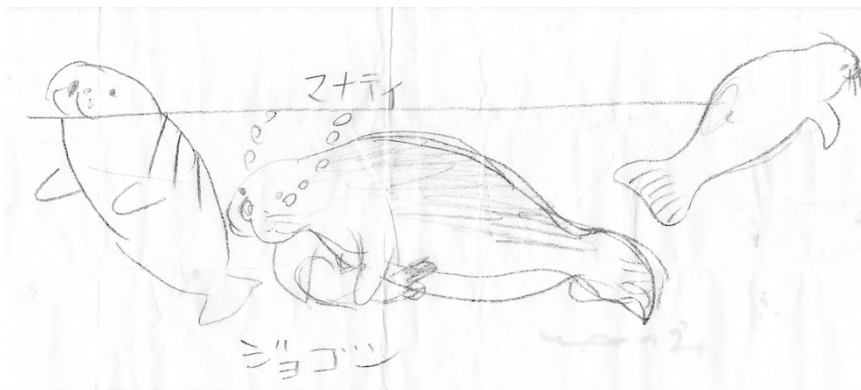
先日、この原稿を書かなければと、古い写真を整理していたら、1989年12月にGeotailでGSFCに出張した際の写真が出てきました。この出張が、私がGeotailに本格的に関わり始めた最初ではないかと思います。一枚はGSFCとのMeetingの日の朝、宿泊していたMaryland INNまでMac Grantさんが迎えに来られた時で、不思議とこの時のことを覚えています。もう一枚は翌日の休日の写真です。



その後、NASAとのJWGが定期的に日本と米国で開催され、NASAのメンバー及びGeotailに搭載された二つの海外センサEPIC、CPIのメンバー、射場のKSC、打上げロケットDelta-IIのMDSSCのメンバーと、多くの米国関係者と仕事をする事ができ、本当に貴重な経験をさせていただきました。特にEPIC、CPIのセンサの開発元のJohns Hopkins大学、Iowa大学のエンジニアとは共同作業も多くなり、衛星の総合試験期間、彼らが日本に数ヶ月滞在していたこともあり、アフター5の交流も楽しい思い出となりました。

彼らとの飲み会では、よく日本の文化や、ことわざなどについて下手な英語と、身振り手振りで話をしました。ことわざの日米比較で「灯台下暗し」を説明した時にそれは英語では”under one’s nose”と言うとの話に、さすが欧米人は鼻が高いので、鼻の下は見えないのかと感心した記憶があります。

その後、フロリダでの打ち上げ準備、運用まで参加させていただき、特にGeotailの打上げ準備では、KSC出張中、家族も1ヶ月ほど滞在し、家内も子供達もフロリダの別世界で、素晴らしい時を過ごさせていただきました。子供達は当時、長男が小学校3年生、次男が1年生、三男が幼稚園でした。私が射場で作業中の日中、彼らは宿泊していたコンドミニウム「サンドキャッスル」のプールで思う存分遊び、また、ココアビーチの海を満喫していました。上杉先生の宿泊されていた家の近くのバナナリバーでマナティーにトマトを食べさせた思い出も子供達には印象深く残っているようです。



NEC長野画伯作

7月の打上げに際しては、打上げ後の運用の対応のため、NECのロンチサイトメンバーでは唯一私一人が日本に戻り、相模原の運用室で上杉先生からの電話での実況中継を聞きながら打ち上げ運用に当たりました。打上げ後、ロンチサイトでは、打上げ成功の祝賀会が行われ、NEC安達がプールに投げ込まれた話等、盛況であった様子を聞き、私も残っていればよかったと、自らの選択に後から後悔したものでした。